

心の原風景 —我が母校—

佐渡市立真野小学校

「黄の島」のルートである真野
古代から交通の要所(駅)で、国府
と国分寺があった真野
遠流の島として順徳上皇をはじめ、
名のある都人の配流の地であつた真野

そして、司馬凌海や有田八郎、
佐々木象堂など、多くの日本の逸材を輩出した真野

真野地区は、佐渡の主要な史跡が集中しており、地域全体が歴史博物館といえる地区です。

このような恵まれた地区の財産を生かし、佐渡市学校教育の基本構想の一つである「郷土を愛し、夢と誇りをもつ教育の充実」のため、真野小学校では、真野地区を中心に、佐渡特有の歴史、文化を学ぶ教育「佐渡学」に取り組んでいます。
真野小学校では、「佐渡学」を「真野つ子学習」と呼び、「真野がよく分り、真野をこよなく愛し、真野に誇りをもてる子ども」を育成することを基本方針にしています。
その「真野つ子学習」のいくつかを紹介します。

5年生では、「豊田音頭を守る

う」という共通課題を設定しています。地元の豊田音頭の歴史・由来・意味や現状を調べています。プロから歌や踊りを学んでいます。そして、学んだことを文化祭などで発表をしています。

6年生は、「金・銀山を中心とした佐渡の史跡・文化を伝えよう」という共通課題で学習を進めています。専門家の指導により、西三川での砂金採りや、佐渡金山や佐渡奉行所での見学や採掘の体験などを実施しています。分りやすくまとめ、文化祭などで発表をしています。

その他、3年生では「倉谷の大わらじ」「文弥人形」、4年生では、佐渡百選の「人面岩」「妙宣寺」「十郎滝」などを取り上げています。これらの学習を通し、これからも郷土を愛する子どもたちを育てていきます。

◆教育委員会学校教育課
(両津支所内) ☎23-4898



豊田音頭の踊り



クイズで「砂金」について発表



佐渡ジオパーク

ジオパーク、推進日記 32

尖閣湾 ～佐渡ジオパークの先駆け～

尖閣湾は、外海府の西寄りに広がる断崖で、今や佐渡の一大観光地になっています。佐渡は、明治時代から新潟との定期航路が開発され、日蓮や順徳上皇の旧跡をめぐる旅を中心に、観光地としての歩みを始めました。その中で、尖閣湾が観光客の押し寄せるスポットとなったのは昭和初期からです。大正8年に、史跡名勝天然記念物を保護する法律ができたことにより、全国各地で調査が開かれ、佐渡では、昭和7年から外海府海岸と小木海岸の地質学的な調査が行われました。

町目からも遊覧船が就航し、尖閣湾で磯漁をする漁船の間近を通るのどかな風景も見られました。
80年前にさかのぼるこの歴史は、外海府の海岸を保護しながら、多くの人々から景観美を楽しんでいただき、それにより地域も元気になるといいう、まさに現在のジオパークが目指す姿です。

◆教育委員会学校教育課ジオパーク推進室(両津郷土博物館内)
☎23-2101

大正時代までの佐渡地図には、「尖閣湾」の名が見られません。昭和8年に佐渡を訪れた地質学者の脇水鉄五郎博士が、ノルウエーの「ハルダンゲル峡湾」になぞらえて命名した地名です。昭和9年には、外海府と小木の海岸が国の名勝や天然記念物に指定され、一躍注目を浴びることとなりました。外海府は、雄大な海岸美が観光資源となり、多くの人々が尖閣湾を訪れました。現在もおなじみの遊覧船による周遊は、すでにこの時期から始まり、地元で3つの観光会社が生まれるほどのにぎわいでした。
当時は、姫津や達者に加え、相川一



吊り橋・磯漁・遊覧の小舟(提供:尖閣湾揚島遊園)